

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水(1階)		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2274202494-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境にも恵まれ、お天気の良い日には散歩に出れば世界遺産である富士山を眺めることができ、喜び、ご近所の方に合えば気軽に挨拶を交わしてくれ、笑顔になり、運営理念である「生き生き生きる」を実感することができます。健康管理では、本部より栄養士のアドバイスを受けた献立表と、入居者様の希望を取り入れたお楽しみ献立の日がある他、豆乳を使用した自家製ヨーグルトを毎朝提供し、便通の改善・体力の向上につながっています。また、ボランティア様の受け入れによって、入居者様に楽しんで頂くだけでなく、地域の方の日頃の活動の成果の発表の場として、お互いの「生き生き生きる」の実現につながってきていると感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“生き生き生きる、”という理念は日常の散歩や食事を通じて実践されるほか、本年度は新たな“遊び、開発によってより充実した取組みとなりました。例えば、バルーンに空気を入れ遠くへ飛ばすレクリエーションを行ったところ、大きく弾ける利用者様子から「あんなに出来るんだ！」という気づきや刺激をもらえ、さらなるレクリエーションが展開されています。企画することは難儀もありますが、『利用者が楽しみ、その笑顔に職員も楽しむ』ことが自然の生業となるよう、繰り返し行っています。また、足腰丈夫で弁舌爽やかな97歳の利用者が昨年メンバーに加わり、職員の意識や利用者の暮らしにハッピースパイスとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため、毎朝の朝礼や毎月の定例会、行事の企画などにおいて意識を高めるように努めています。	散歩先で近隣の人からもらった鮮やかな黄色の菊がテーブルに飾られた傍ではソングと体操レクリエーションが展開していて、「生き生き生きる」の実践が垣間見えます。言葉がやさしく端的なためか、職員の口からこぼれることも多くあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方とのふれあいを大切に、日々の散歩の際には積極的に挨拶をしたり、自治会長様と連絡を取り地域の行事の情報を頂き、参加させていただくよう努めているほか、夏の納涼祭には回覧板を回していただいたりチラシを配布し参加者も増えてきました。	地域住民との交流機会として夏の納涼祭があり、本年度は冬のクリスマス会を加えパワーアップを試みています。納涼祭は回覧板で廻してもらえ、またクリスマス会は自治会館を借りて行う事ができました。日頃の努力もあり、どんど焼きといった地域行事にも声がかかります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れは入居者様に喜んでいただくだけでなく、地域の方の日ごろ取り組んでいることの発表の場として活用して頂いています。地域の方に認知症の理解に関する勉強会などに取り組んでいきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催に、ご家族様だけでなく地域包括職員、他グループホーム管理者、行政などからの参加もあり多くの意見や情報を頂き、運営に役立たせていただいています。	運営推進会議終了後に家族会を行っていて、会議への家族参加が4~5名と他の事業所と比較して多くあります。民生委員の参加が待たれており、参加メンバーの層を厚くしたいとの課題があるものの、真摯な報告と進行の様子を議事録にて確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の方の担当者様にはいろいろ相談に乗っていただいたり体調の変化等報告したりと連携に努めています。	運営推進会議では行政職員が年1回、地域包括支援センターからは毎回の参加があり、連携に役立っています。介護相談員の訪問も毎月あり、利用者が楽しそうな光景に職員も心む時間をもっています。地区のグループホーム連絡会にも参画しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し、身体拘束は守られているが、言葉の拘束に於いては些細なことで拘束に直する言葉を聞くことがあり、その都度注意を呼びかけています。また、夜間以外は玄関の施錠をせず、無断外出に対するリスクの軽減の為こまめに所在の確認を意識するよう努めています。	玄関は日中開放しています。転倒が心配な余りの声掛けや手の動きにロックと思いきものがみられた場合は、職員会議で意識面・環境面双方における改善対策を話し合っています。生活日誌に休憩の時間を記録しており、職員のメンタル面への配慮もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で身体観察を徹底し、不審なアザ等は原因を追求し虐待の防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い、わかりにくいところは、具体例を上げて説明し、理解していただいた上で契約を結ぶように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様が意見を言いやすいように普段から声かけをまめにするよう努め、いただいたご意見は、職員全員が共有できるように日々の申し送り時や毎月の定例会で話し合い、要望になるべくそうよう努めています。	本年初めて取り組んだ事業所の外でのクリスマス会では、「送迎に協力できますよ」と家族から手が挙がっていて、関係の充実が覗えます。また、運営推進会議では「花を増やしたい」「畑をしたら」と家族意見もみられ、議事録には率直な想いが記載されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会において職員からの意見や提案を聞く機会・話し合う機会を設けて活用に努めています。	職員自らの意見というのは余りありませんが、管理者の促しや提案からの行動はあるため、「取組みのなかから学び、次へ活かして繋げてもらえたらよい」という状況にあります。本部への提出シートには「提案事項、欄があり、気づきを直接進言できる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員からの勤務希望は随時受け入れ、無理のない勤務体制に努めています。また、各職員の実績や勤務状況を評価し、社員表彰式を実施し向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施し、適時現場にチェックに入り確認、指導に努めています。また、外部研修の資料の掲示をし自己研鑽に活用するよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括のケア会議や介護相談員情報交換会、圏域グループホーム連絡会などに参加し、サービスの向上に取り組んでいます。また、他系列のグループホームの地域運営推進会議にも相互の参加を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の要望を聞きアセスメントし、入居後も要望が言い易いようにこまめに声掛けをし、困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、答えていけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入に当たり、ご家族が困っていることや心配されていることを傾聴し、どのような対応ができるのかお伝えし、ご家族と共にご本人様を支えていけるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の面談でアセスメントを行い、今必要としている支援をケアプランにし、施設での生活が可能かどうか、ご家族様も安心していただけるかどうか、見極めた上でご契約いただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味があることを実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活していただけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が気軽に面会に来やすい環境づくりに努め、状態の変化等必要に応じご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなくお知り合いの方や馴染みの方にも気軽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。	家族の教え子や趣味の仲間が訪ねてきたり、家族の帰省に合わせて自宅に帰る人もいます。読書好きな利用者には家族が面会の度に書籍を届けています。職員の縁から訪問した子どもフラダンスは、今後馴染みの関係になることが期待されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あいだに職員が入ることでより入居者様同士の関係性を良好に維持していけるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族としてというよりも人として気づいた関係を大切に、さりげなくその後のご様子を伺ったり、必要に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こまめな言葉掛けによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に、日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努め、ケアプランに活かせるよう努めています。	声掛けを密にして相互にフォローできるよう、管理者から随時注意しています。また、「拒否も、やって欲しくないという一つ意思表示として、プラスに受けとめてください」と、受容の精神を育むよう職員を指導しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、また日々の関わりの中でご本人やご家族様から得た情報は、職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、毎月の定例会において今の状況の把握と対応方法の変化に対応できるよう周知徹底に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時に、カンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。	ケアマネージャー資格をもつ管理者が計画作成担当者のバックアップ役として、家族とのハウレンソウを収束しています。『リスク対策がマンネリ化しないように』との法人の方針から、ヒヤリハットの多い利用者には2表を作成し、補強しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者ごとに経過記録を作成し、時系列に記帳し、情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、思いや要望に添えるよう、個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティア受け入れ、地域行事に参加するなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の主治医と連携を図り、ご家族様と相談、報告を密に安心して生活できるよう支援に努めています。	月1回の往診もあり、「近い」との安心感から大半が協力医に変更しています。訪問看護も週1回あり、職員も医療に係る質問ができ助かっています。在宅の頃からのかかりつけ医を継続利用の利用者にも職員が付き添い、医療連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師によるバイタルチェックと状態の観察、日々の状態の報告と相談によって医療との連携に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった時、ご家族、病院関係者との連絡を密にし、早期退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族様に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いては、ご家族様や主治医等と相談をしながら職員全員で支援に努めています。	『看取り及び医療連携に関する指針』が本年度新たに書面化され、その後契約の家族・利用者から導入を開始しています。本人の状態に家族負担も交えて総合的に話し合っており、入院を経て療養型に移転する人もいます。	『看取り及び医療連携に関する指針』の次のステップとして、夜勤帯職員の負担も包括した組織的支援や教育研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりが激しくすべてが応急手当や初期対応が行えるような訓練がいきとどいていないため、発生時は速やかに管理者の指示を得るような体制を整え対応に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練や、消防署職員立会の訓練等によって指導を受けています。地域の協力体制については、日々の関わりを深めることに努めています。	利用者も全員参加しているため、訓練の前から防災頭巾をかぶっているといった改善点がみえ、毎回收穫があります。今回は、夜間想定又はショートメールの連絡網の訓練を予定しています。防災備蓄としてはありませんが、常に米が2週間程度あります。	地域連携に向け、まずは地域の防災訓練に職員が参加することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉がけはお互いにチェックし合うよう努めています。	「黄色の新幹線見たよ～」の利用者の声に、何人も職員が反応して関わっている様子から、発語を大切にしていることを受けとめました。職員の多くは言葉遣いも優しく丁寧な対応で、また入浴日を替える工夫をして同性介助の希望にも応えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定しやすいようにその方に合わせた言葉がけを意識して、対応するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での規則正しい生活リズムを保ちつつ、入居者様の状態や要望に対応し無理のない生活ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれへの関心を維持できるよう気配りした声掛けができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じ食事作りに関わっていただいたり、片付けに参加していただき、食べるだけでなく食生活全体として楽しむことができるよう努めています。	現在は3食1汁3菜ですが、来月から事故防止を考慮して朝食は1汁2菜+ヨーグルトとなる予定です。この決定は本部主催の食事リーダー会議において話し合われたもので、検討する機会が定期であります。食後は利用者も積極的に食器のふきあげを手伝っていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表・水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、一人ひとりに合った食事形態での提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアは、まずご本人様に出来る範囲で行っていただいた後、確認し必要に応じ仕上げをさせていただき清潔の保持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しひとりひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	失禁したら誰もが恥ずかしいと感じるため、チェック表を活用した早め早めの声掛け誘導を奨励しています。気づきの伴う声掛けはまだ万全とはいえない状況ですが、便秘症状が好転したといった実績もみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、特性ヨーグルトの提供と十分な水分提供、消化吸収しやすい調理方法、習慣化された体操や歩行運動によってかなり便秘の改善が出来てきていると感じています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望された時にも応じるよう努めています。	時間帯は午後とし、週2日をめやすとしています。希望があれば応じています。機械浴の設置はないため2人介助が必要なこともありますが、職員は他の業務を調整して取組み、また湯は一人ひとり入れ替えています。洗淨タオルをいくつか用意していて、入浴剤も選ぶことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムの尊重や状態を把握し、心地よい安眠に付けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬の情報はすぐに調べられるように各フロアの個人ファイルに入れてあり変更があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことや、出来ることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を感じられるような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日には、散歩の声かけをし、行きたいところを決めていただいたり楽しく散歩ができるよう努めています。また、定期的に1日掛りの外出も企画し日常では味わえない体験を楽しんでいただいています。	法人内4事業所共有の介護車輛は車椅子を4台乗せることが可能で、当事業所を駐車場所としており、利用しやすい環境にあります。9月は富士川楽座、10月は掛川花鳥園へと行楽の秋、1月は護国神社の初詣を楽しみました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物の要望があれば、一緒に買い物に行き、立て替えて買い物を楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある方には、ご家族と相談の上、計画的な支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、絵や装飾品で季節感を感じられるように努めています。	利用者の運動も兼ねて職員と共に毎日清掃していて、隅々まで清潔で5Sが行き届いています。また、利用者が描いた作品をはじめ洒落た絵画が壁を飾り、インテリアへの配慮が感じられます。居室の表札が「〇〇さん」とさんづけなのは珍しく、印象に残りました。	共用空間に戸がない棚がいくつか見られました。何も置かないにしても目隠しカーテンなどで見た目の工夫に取り組まれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	ベッドで寝た状態からでもかわいがっていた猫の写真を観ることができる位置を工夫したり、読みかけの雑誌を無造作に置いていて、それぞれが好みの暮らしを満喫している様子を視認しました。リスクが予見される利用者には家族の了解を得て床にクッション材を敷いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ、最小限の援助で自立した生活が送れるよう支援に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水(2階)		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の自然環境にも恵まれ、お天気の良い日には散歩に出れば世界遺産である富士山を眺めることができ、喜び、ご近所の方に合えば気軽に挨拶を交わしてくれ、笑顔になり、運営理念である「生き生き生きる」を実感することができます。健康管理では、本部より栄養士のアドバイスを受けた献立表と、入居者様の希望を取り入れたお楽しみ献立の日がある他、豆乳を使用した自家製ヨーグルトを毎朝提供し、便通の改善・体力の向上につながっています。また、ボランティア様の受け入れによって、入居者様に楽しんで頂くだけでなく、地域の方の日頃の活動の成果の発表の場として、お互いの「生き生き生きる」の実現につながってきていると感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“生き生き生きる、”という理念は日常の散歩や食事を通じて実践されるほか、本年度は新たな“遊び、開発によってより充実した取組みとなりました。例えば、バルーンに空気を入れ遠くへ飛ばすレクリエーションを行ったところ、大きく弾ける利用者様子から「あんなに出来るんだ！」という気づきや刺激をもらえ、さらなるレクリエーションが展開されています。企画することは難儀もありますが、『利用者が楽しみ、その笑顔に職員も楽しむ』ことが自然の生業となるよう、繰り返し行っています。また、足腰丈夫で弁舌爽やかな97歳の利用者が昨年メンバーに加わり、職員の意識や利用者の暮らしにハッピースパイスとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践するため、毎朝の朝礼や毎月の定例会、行事の企画などにおいて意識を高めるように努めています。	散歩先で近隣の人からもらった鮮やかな黄色の菊がテーブルに飾られた傍ではソングと体操レクリエーションが展開していて、「生き生き生きる」の実践が垣間見えます。言葉がやさしく端的なためか、職員の口からこぼれることも多くあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方とのふれあいを大切に、日々の散歩の際には積極的に挨拶をしたり、自治会長様と連絡を取り地域の行事の情報を頂き、参加させていただくよう努めているほか、夏の納涼祭には回覧板を回していただいたりチラシを配布し参加者も増えてきました。	地域住民との交流機会として夏の納涼祭があり、本年度は冬のクリスマス会を加えパワーアップを試みています。納涼祭は回覧板で廻してもらえ、またクリスマス会は自治会館を借りて行う事ができました。日頃の努力もあり、どんど焼きといった地域行事にも声がかかります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れは入居者様に喜んでいただくだけでなく、地域の方の日ごろ取り組んでいることの発表の場として活用して頂いています。地域の方に認知症の理解に関する勉強会などに取り組んでいきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催に、ご家族様だけでなく地域包括職員、他グループホーム管理者、行政などからの参加もあり多くの意見や情報を頂き、運営に役立たせていただいています。	運営推進会議終了後に家族会を行っていて、会議への家族参加が4~5名と他の事業所と比較して多くあります。民生委員の参加が待たれており、参加メンバーの層を厚くしたいとの課題があるものの、真摯な報告と進行の様子を議事録にて確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の方の担当者様にはいろいろ相談に乗っていただいたり体調の変化等報告したりと連携に努めています。	運営推進会議では行政職員が年1回、地域包括支援センターからは毎回の参加があり、連携に役立っています。介護相談員の訪問も毎月あり、利用者が楽しそうな光景に職員も心穏やかな時間をもっています。地区のグループホーム連絡会にも参画しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の家庭での生活の延長と尊厳を意識し、身体拘束は守られているが、言葉の拘束に於いては些細なことで拘束に直する言葉を聞くことがあり、その都度注意を呼びかけています。また、夜間以外は玄関の施錠をせず、無断外出に対するリスクの軽減の為こまめに所在の確認を意識するよう努めています。	玄関は日中開放しています。転倒が心配な余りの声掛けや手の動きにロックと思いきものがみられた場合は、職員会議で意識面・環境面双方における改善対策を話し合っています。生活日誌に休憩の時間を記録しており、職員のメンタル面への配慮もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で身体観察を徹底し、不審なアザ等は原因を追求し虐待の防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、行政や地域包括と相談しながら活用できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者やご家族様に十分説明を行い、わかりにくいところは、具体例を上げて説明し、理解していただいた上で契約を結ぶように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様が意見を言いやすいように普段から声かけをまめにするよう努め、いただいたご意見は、職員全員が共有できるように日々の申し送り時や毎月の定例会で話し合い、要望になるべくそうよう努めています。	本年初めて取り組んだ事業所の外でのクリスマス会では、「送迎に協力できますよ」と家族から手が挙がっていて、関係の充実が覗えます。また、運営推進会議では「花を増やしたい」「畑をしたら」と家族意見もみられ、議事録には率直な想いが記載されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月の定例会において職員からの意見や提案を聞く機会・話し合う機会を設けて活用に努めています。	職員自らの意見というのは余りありませんが、管理者の促しや提案からの行動はあるため、「取組みのなかから学び、次へ活かして繋げてもらえたらよい」という状況にあります。本部への提出シートには「提案事項、欄があり、気づきを直接進言できる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員からの勤務希望は随時受け入れ、無理のない勤務体制に努めています。また、各職員の実績や勤務状況を評価し、社員表彰式を実施し向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部において研修を実施し、適時現場にチェックに入り確認、指導に努めています。また、外部研修の資料の掲示をし自己研鑽に活用するよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括のケア会議や介護相談員情報交換会、圏域グループホーム連絡会などに参加し、サービスの向上に取り組んでいます。また、他系列のグループホームの地域運営推進会議にも相互の参加を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の要望を聞きアセスメントし、入居後も要望が言い易いようにこまめに声掛けをし、困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、答えていけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入に当たり、ご家族が困っていることや心配されていることを傾聴し、どのような対応ができるのかお伝えし、ご家族と共にご本人様を支えていけるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の面談でアセスメントを行い、今必要としている支援をケアプランにし、施設での生活が可能かどうか、ご家族様も安心していただけるかどうか、見極めた上でご契約いただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味があることを実践できる環境づくりとして、行動を制限せず、見守る姿勢に努め最小限の支援で安心して生活していただけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が気軽に面会に来やすい環境づくりに努め、状態の変化等必要に応じご連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなくお知り合いの方や馴染みの方にも気軽に遊びに来ていただけるよう対応に努めています。	家族の教え子や趣味の仲間が訪ねてきたり、家族の帰省に合わせて自宅に帰る人もいます。読書好きな利用者には家族が面会の度に書籍を届けています。職員の縁から訪問した子どもフラダンスは、今後馴染みの関係になることが期待されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あいだに職員が入ることでより入居者様同士の関係性を良好に維持していけるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族としてというよりも人として気づいた関係を大切に、さりげなくその後のご様子を伺ったり、必要に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こまめな言葉掛けによって本人の希望や意向を表出しやすい環境を整えると共に、日々の行動の中から本人の意思表示となる行為を見逃さないように努め、ケアプランに活かせるよう努めています。	声掛けを密にして相互にフォローできるよう、管理者から随時注意しています。また、「拒否も、やって欲しくないという一つ意思表示として、プラスに受けとめてください」と、受容の精神を育むよう職員を指導しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、また日々の関わりの中でご本人やご家族様から得た情報は、職員間で共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、毎月の定例会において今の状況の把握と対応方法の変化に対応できるよう周知徹底に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時に、カンファレンスを行い、ご家族様の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。	ケアマネージャー資格をもつ管理者が計画作成担当者のバックアップ役として、家族とのハウレンソウを収束しています。『リスク対策がマンネリ化しないように』との法人の方針から、ヒヤリハットの多い利用者には2表を作成し、補強しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者ごとに経過記録を作成し、時系列に記帳し、情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者の声を聴き、思いや要望に添えるよう、個別ケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の訪問散髪、ボランティア受け入れ、地域行事に参加するなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の主治医と連携を図り、ご家族様と相談、報告を密に安心して生活できるよう支援に努めています。	月1回の往診もあり、「近い」との安心感から大半が協力医に変更しています。訪問看護も週1回あり、職員も医療に係る質問ができ助かっています。在宅の頃からのかかりつけ医を継続利用の利用者にも職員が付き添い、医療連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師によるバイタルチェックと状態の観察、日々の状態の報告と相談によって医療との連携に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった時、ご家族、病院関係者との連絡を密にし、早期退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より状態の変化等ご家族様に報告し、重度化しつつある入居者様の支援に於いては、ご家族様や主治医等と相談をしながら職員全員で支援に努めています。	『看取り及び医療連携に関する指針』が本年度新たに書面化され、その後契約の家族・利用者から導入を開始しています。本人の状態に家族負担も交えて総合的に話し合っており、入院を経て療養型に移転する人もいます。	『看取り及び医療連携に関する指針』の次のステップとして、夜勤帯職員の負担も包括した組織的支援や教育研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりが激しくすべてが応急手当や初期対応が行えるような訓練がいきとどいていないため、発生時は速やかに管理者の指示を得るような体制を整え対応に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災訓練や、消防署職員立会の訓練等によって指導を受けています。地域の協力体制については、日々の関わりを深めることに努めています。	利用者も全員参加しています。「訓練前から防災頭巾をかぶるのをやめ、日常生活の状態からの自然な取組に改善した」など毎回収穫があります。今回は、夜間想定又はショートメールの連絡網の訓練を予定しています。防災備蓄としては水があり、常備用の米が2週間程度あります。	地域連携に向け、まずは地域の防災訓練に職員が参加することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を損ねないよう言葉がけはお互いにチェックし合うよう努めています。	「黄色の新幹線見たよ～」の利用者の声に、何人も職員が反応して関わっている様子から、発語を大切にしていることを受けとめました。職員の多くは言葉遣いも優しく丁寧な対応で、また入浴日を替える工夫をして同性介助の希望にも応えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定しやすいようにその方に合わせた言葉がけを意識して、対応するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での規則正しい生活リズムを保ちつつ、入居者様の状態や要望に対応し無理のない生活ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれへの関心を維持できるよう気配りした声掛けができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の持っている能力に応じ食事作りに関わっていただいたり、片付けに参加していただき、食べるだけでなく食生活全体として楽しむことができるよう努めています。	現在は3食1汁3菜ですが、来月から事故防止を考慮して朝食は1汁2菜+ヨーグルトとなる予定です。この決定は本部主催の食事リーダー会議において話し合われたもので、検討する機会が定期であります。食後は利用者も積極的に食器のふきあげを手伝っていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表・水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、一人ひとりに合った食事形態での提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアは、まずご本人様に出来る範囲で行っていただいた後、確認し必要に応じ仕上げをさせていただき清潔の保持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しひとりひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	失禁したら誰もが恥ずかしいと感じるため、チェック表を活用した早め早めの声掛け誘導を奨励しています。気づきの伴う声掛けはまだ万全とはいえない状況ですが、便秘症状が好転したといった実績もみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、特性ヨーグルトの提供と十分な水分提供、消化吸収しやすい調理方法、習慣化された体操や歩行運動によってかなり便秘の改善が出来てきていると感じています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を選んでいただいたり、突発的に入浴を希望された時にも応じるよう努めています。	時間帯は午後とし、週2日をめやすとしています。希望があれば応じています。機械浴の設置はないため2人介助が必要なこともありますが、職員は他の業務を調整して取組み、また湯は一人ひとり入れ替えています。洗淨タオルをいくつか用意していて、入浴剤も選ぶことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムの尊重や状態を把握し、心地よい安眠に付けるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬の情報はすぐに調べられるように各フロアの個人ファイルに入れてあり変更があったときは申し送りの他、職員それぞれが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことや、出来ることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を感じられるような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日には、散歩の声かけをし、行きたいところを決めていただいたり楽しく散歩ができるよう努めています。また、定期的に1日掛りの外出も企画し日常では味わえない体験を楽しんでいただいています。	法人内4事業所共有の介護車輛は車椅子を4台乗せることが可能で、当事業所を駐車場所としており、利用しやすい環境にあります。9月は富士川楽座、10月は掛川花鳥園へと行楽の秋、1月は護国神社の初詣を楽しみました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物の要望があれば、一緒に買い物に行き、立て替えて買い物を楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある方には、ご家族と相談の上、計画的な支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、絵や装飾品で季節感を感じられるように努めています。	利用者の運動も兼ねて職員と共に毎日清掃していて、隅々まで清潔で5Sが行き届いています。また、利用者が描いた作品をはじめ洒落た絵画が壁を飾り、インテリアへの配慮が感じられます。居室の表札が「〇〇さん」とさんづけなのは珍しく、印象に残りました。	共用空間に戸がない棚がいくつか見られました。何も置かないにしても目隠しカーテンなどで見た目の工夫に取り組まれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを使い食卓とは別のスペースでくつろげるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	ベッドで寝た状態からでもかわいがっていた猫の写真を観ることができる位置を工夫したり、読みかけの雑誌を無造作に置いていて、それぞれが好みの暮らしを満喫している様子を視認しました。リスクが予見される利用者には家族の了解を得て床にクッション材を敷いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体能力に応じ、最小限の援助で自立した生活が送れるよう支援に努めています。		